

1 初動対応の改善について

対応状況	課題	改善策
自動火災報知設備の発報から、警備会社及び職員による確認をした為、消防通報までに1時間余りを要した。	事実確認に複数人が関わったため、調査に時間がかかってしまった。	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速に状況確認をするため、夜間監視も可能な赤外線照明内蔵式監視カメラをピット内に設置する。 ・上記カメラの設置により自動火災報知設備の警報を受信した場合、警備会社が監視カメラでピットの状況を確認し、煙又は炎が発生している場合には即時に消防へ通報ができるように初動体制を見直す。 ・警備会社は、消防通報後、センター職員に連絡すると共に、ビート員をセンターに急行させる(継続)。 ・ビート員、センター職員は、センターに急行し、施設を開錠するなど、消防局の消火活動を支援する。
火災通報は、ピット内の熱感知器または煙感知器のいずれかの作動により通報する。	より早期に自動火災報知設備が作動するようにすること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自動火災報知設備は、従来の熱感知器と煙感知器に加え、新たにピット内に赤外線式炎感知器を設置し作動するようにすることで、火災検知機能の向上を図る。
スプリンクラーは、ピット内の赤外線炎検知により作動をするよう設定していた。	より早期にスプリンクラーが作動するようにすること。	<ul style="list-style-type: none"> ・スプリンクラーは、赤外線炎検知、自動火災報知設備の熱感知器と煙感知器の、いずれか早い信号を受信次第、散水するように変更し、安全機能の強化を図る。

火災発生時のフローチャート

